

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 番外編 その6
コメント一覧

おしゃべり

年をとったせいか、この「おしゃべり」がだいぶ嵩じてきました。でも、翻訳には「正解・正訳」はなく、結局は訳者の「語り」ですから、こうした「おしゃべりも」辛抱強く付き合ってください。

生活環境

先日稲村が先の拙宅にいらした客人が、急坂を登ってくる時驚が発声練習していましたが、下るときはいくらか上手になっているかと楽しみにしていました。こんなことも、話にならないかな。

気象情報

最近のTVはこの気象情報が売り物のよう。でも、あれ時間調整なんだな。感謝することもないや。

八坂書房、1998年

最終巻が18,000円という高額商品だけど、くだらん旅行よりは面白い。去年の神田古本市で八坂さんの御息子にお目にかかって杉本先生のお話をしたら、「編集泣かせの難しい先生」とのこと。

基礎教養

数年前ぼくの『翻訳は文化である』（丸善ライブラリー）で、大学の授業料に比べたら安いもんだ、という意味で讃辞を呈したのだがな。

仕事

まず近代日本語と蘭学がすばらしい啓蒙書だったな。

別の山

ぼくはバルザックに魅せられて、それからリアリズム小説に。神保町の田村書店でW. スコットの小説全集を買ったっけ。どうやって持ち帰ったのか覚えていないけど、車のはずはなかった。

トルストイが似合う

『復活』がとくにお勧めだ。若いとき昇曙夢訳で読もうとしたのが悪かった。50年、読みさしたったのを白葉訳で読んだら眠れない夜が続いた。

米川正夫先生

幸いにも『罪と罰』『カラマーゾフ』いずれも米川訳から読みだして、今なお、米川訳を愛している。

thus far

どう訳そうかな？

something like defiance

もう1回同じdefianceを使っているけど、矛盾させないで訳さなければ。

formally

「正式に」は野暮だな。

drew back from

こうした言葉、意外と難しいですね。

the man with the beard

さあ、うまく訳したいな。

Was the young lady Naomi Colebrook?

平坦に中学校の教科書のつもりで訳さないで。末尾のat last!も。

私に

「私に」は邪魔だな。

私が気づいてしまって申し訳ないと思うような、

ゼミの教室ではペケだよ。

私が結婚をして親戚になった若者

なんとかならないかな？

知り合いになってくれないかね

そうかね？

圧倒されてたじろいでいました

他に？

自らこの初対面の人物を私に紹介し、

ゴテついているな。

家内の方の親戚でルフランク君だ

いいぞ！

場所を変えてゆっくりと休むために

講座の頭に戻ってみておくれよ。

そのためにか、または別の理由で

そうなんだよ、困ったな、もつと的確にあっさり行きたいな。